

武蔵野市のスポーツを取り巻く現状と課題【するスポーツについて】

アンケート調査とヒアリング調査からわかること

①子どものスポーツ

- スポーツを好きな小学5年生男女、中学2年生男女の割合はそれぞれ全国よりも低い。特に、**中学2年生女子は最も低い**。スポーツをきらいな理由は、学年にかかわらず「得意ではないから」が上位1位である。
- 各競技種目における実施希望率と実施率の差を全体で見ると、「**ボルダリング**」「**ボウリング**」「**テニス・ソフトテニス**」「**マリンスポーツ・ウィンタースポーツ**」が大きい。
- スポーツを週1日以上実施している「実施層」の割合は、小学5年生よりも中学2年生の方が高く、スポーツを実施していない「非実施層」の割合も、小学5年生よりも中学2年生の方が高く、**中学生で二極化傾向がより顕著**となっている。
- 運動クラブ・運動部活動の加入率は、小学校は男女とも全国よりも高いが、中学校は男女とも全国よりも低い。特に、**中学2年生女性が5割弱と最も低く、全国よりも約1割低い**。
- 子どもがスポーツ指導者に求めることは「**技術・知識**」が最多。

②大人のスポーツ

- 市全体の週1日以上スポーツ実施率(68.4%)は全国や東京都全体よりも高い。同実施率の低い市民の特徴は、**男性40歳代(53.7%)**、**女性20歳代(45.7%)**、**武蔵境地域在住者(64.8%)**、**中学生以下の子どもと同居している人(62.5%)**である。
- 実施内容の上位1位は「ウォーキング・散歩」が8割弱(過年度調査よりも約3.5割増)、2位は「体操(ストレッチ、エクササイズ、ヨガ等)」が約4.5割(過年度調査よりも約2割増)であり、**一人で自宅または自宅周辺で取り組める内容の割合が高くなっている**。一方、サッカーやバレーボール、水泳、武道などの割合に大きな変化は認められなかった。
- 各競技種目における実施希望率と実施率の差を全体で見ると、「**登山・ハイキング・釣り**」「**水泳**」が大きい。しかし、非実施層は「**ウォーキング**」が最も大きい(次ページ参照)。
- スポーツクラブやサークルの加入者及び加入希望者が加入した(加入したい)動機は「**健康づくり**」「**好きなスポーツができる**」「**継続してできる**」「**仲間づくり**」が多い。
- スポーツを継続するコツは、「無理せず自分のペースで取り組む」「顔見知りになった人との会話を楽しむ」「できるようになったことを楽しむ」などである。
- 武蔵野市のスポーツ推進のために、力を入れるべきことは「**初心者またはひとりでも参加できる機会・場の充実**」が最多。

市のこれまでの取組・評価

①スポーツを実施するきっかけづくり

- 一流のトップアスリートと触れ合うことができるスポーツの体験イベント「**Sports for All**」を実施し、子どもを中心に**感動体験を提供する場**として定着している。今後も継続していきたい。
- **幼児から高齢者**まで、さらには**家族でも気軽に参加できる**教室やイベントを開催している。具体的な内容は、体操やインラインスケート、ボッチャやブラインドマラソン等のパラリンピック種目、ドッチビー等のニュースポーツなどであり、市民の健康づくり、コミュニケーションの創出に寄与することができた。
- ボール投げやかけっこなど、**苦手を克服**するためのプログラムを含め、子ども向けのスポーツ教室を数多く実施してきた。
- 体型と健康に着眼した女性が関心を持ちやすいプログラムを提供してきており、多くの参加者を募ることができた。今後は**美容や栄養などに関するプログラムづくり**を展開し、新規参加者を獲得していく必要がある。
- 若者向けに登山、アウトドアカレッジ、スケート、カーリングなどを実施・体験できる取組を推進してきたが、**若者の参加が少ない**ため、見直すかどうか検討が必要である。
- **健康づくり**や**フレイル予防**を主な目的として体操、ストレッチ、ユニバーサルスポーツなどの教室を開催することができた。
- 総合体育館に通いづらい方向けに、学校、武蔵野プレイス、コミセン、スポーツショップを活用した**アウトリーチ事業**を実施している。
- 障害のある方が気軽にスポーツを楽しめるように、スポーツ教室や障害者のためのスポーツ広場事業などを開催し、また、「Do SPORTS!」に施設設備やプログラムの情報を整理し、掲載した。

②スポーツを実施・継続する場づくり

- 学校運動部活動は安定して運営できており、学校によっては**部活動指導員を配置**することができている。
- 日頃の活動の成果を発揮するスポーツ大会を開催している。
- 体育館は、運動習慣のない高齢者にとって利用するハードルが高いと思われるため、**健康関連施設等との連携も必要**である。
- 公民のスポーツ施設だけではなく、学校や公園、コミュニティセンターなどもスポーツを実施する場として有効活用したい。
- **YouTubeチャンネルを開設**し自宅でもできる体操やストレッチ、キャンプ動画を配信している。
- **トップアスリート**や**民間スポーツクラブの指導者**とふれあう機会により、スポーツの楽しさをより体感してもらっている。

次期計画に向けた現状と課題

①スポーツを好きな子どもを増やす

- 子ども向けのスポーツ教室は充実しているが、全国と比べるとスポーツを好きな子どもの割合は低い。トップアスリートや民間スポーツクラブ等との公民連携を図り、スポーツの魅力や基本的な運動動作の向上に資する技術や知識をより一層伝える必要がある。

②中学生の二極化傾向・スポーツ離れを抑制する

- 小学校よりも中学生ではスポーツの二極化傾向が顕著となっている。
- 競技性の高いスポーツだけではなく、レクリエーション要素の強いスポーツや、自然の中で活動するシーズンスポーツなど、子どもに関心の高いテーマと連動させた取組が必要である。
- また、学校運動部活動環境の充実に向けて、外部からの指導者の確保や道具・用品の貸与などを見据えて民間団体との連携を検討する。

③実施率の低い対象への取組を追加・拡充する

- 週1日以上スポーツ実施率が特に低い世代は、ビジネスパーソンなどの働き盛り世代や子育て世代であった。地域による実施率の偏りも確認できた。
- スポーツを実施している人は野外活動や水泳のニーズが高い一方で、実施していない人はウォーキングのニーズが高かった。
- 実施率の低い対象を見極めつつ、スポーツに対する関心・行動の段階に応じた取組を行う必要がある。

④多様な主体が実施できる環境づくりを推進する

- 女性の関心を捉えた取組や、高齢者や障害者に対するアウトリーチ事業、動画配信などで多様な主体がスポーツを実施できる取組を実施している。
- 今後もデジタル技術等を活用して取組を拡充していくことが重要である。
- また、障害者スポーツの推進にはこれまで力を入れてきたが、より一層の充実に向けて取り組むことが必要である。

⑤体験・参加から定着・継続に向けた取組を行う

- 部活動や日頃の成果を発揮するスポーツ大会は安定して運営できているが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて制限されている部分もある。
- スポーツを実施するための身近な場としてクラブ・サークルや公園、コミセンなどもある。
- スポーツの定着・継続に向けた取組が求められる。

市のスポーツを取り巻く現状と課題【みるスポーツについて】

アンケート調査からわかること

- スポーツの観戦方法は、小学5年生、中学2年生ともに「テレビ」が上位1位、2位は**小学5年生**が「**会場で直接**」、**中学2年生**が「**インターネット**」である。
- 過去1年間におけるスポーツの**直接観戦率は全国や東京都全体よりも低い**。
- 過去1年間におけるテレビ等（テレビ、ラジオ、インターネット）でのスポーツ観戦率は東京都全体よりも低いが全国よりは高い。
- **男性20～40歳代**は他の性×年代よりも「**インターネット**」でのスポーツ観戦率が高い。
- **女性**の方が男性よりもスポーツを観戦していない。
- スポーツの観戦理由の上位1位は「その**スポーツが好き**だから」、2位は「**応援しているチーム**がある」となっている。
- スポーツ観戦とスポーツ実施、スポーツを支える活動は**相互に関連**している行為であることがうかがえる。
- ラグビーワールドカップ2019(TM)の影響を受けて、ラグビーに興味を持った人が半数以上いた。さらに、ラグビーまたはスポーツをはじめたい、再開したい、今以上にやりたいと思った人が一定程度いることから、「**みるスポーツ**」を通じて、**スポーツへの関心喚起や実行促進につながる**可能性がうかがえる。
- 市民の自由意見からは、親子で様々なスポーツを応援・観戦する機会をもっと増やしてほしいというニーズがみられた。

市のこれまでの取組・評価

- ラグビーワールドカップ2019(TM)を契機に、日本戦の**パブリックビューイング**や、日豪の元ナショナルチームにおける**親善試合の開催**により、市民の観戦機会を創出し、みるスポーツの醍醐味や応援する喜びを伝え、感動の瞬間を届けることができた。
- Sports for All や桜まつりなどのイベント時に、**市にゆかりのあるトップアスリートやトップチーム**を招いて紹介し、応援する楽しみやきっかけをつくった。
- JFL に所属している**東京武蔵野ユナイテッドFC**の運営母体である（一社）横河武蔵野スポーツクラブと相互協力を締結し、子どもをはじめとする市民に観戦機会を提供した。
- パラリンピアンによる講演・実技体験機会や、ポッチャの国際親善試合やシッティングバレーボール日本選手権の開催により、障害者スポーツの関心や観戦意向の醸成に寄与する取組を行った。

次期計画に向けた現状と課題

①多様な観戦の在り方を推進する

- スポーツ観戦にはオリンピック・パラリンピックやプロスポーツの大会等の観戦だけでなく、子どもや配偶者などの家族が出場する大会等の観戦や応援も含まれる。
- 一方、新型コロナウイルス感染症の影響により、会場で直接観戦できる人数の制限がかかっており、従来のように観戦できる環境ではなくなりつつある。パブリックビューイングやインターネットなど、多様な観戦の在り方を検討する必要がある。

②観戦・応援する文化の醸成

- スポーツの観戦理由について、上位の項目を踏まえ、競技性の高いスポーツに対する関心を高める取組や、市にゆかりある選手、市内のチーム、地域の大学などを応援するきっかけを提供することが必要である。
- スポーツを「する」「みる」「ささえる」は相互に関連し合う活動であり、特に、スポーツの観戦をきっかけとして、「するスポーツ」や「ささえるスポーツ」へとつなげるような活動の広がりや連続性を意識した取組が重要である。

③魅力ある大規模スポーツ大会の誘致に努める

- ラグビーワールドカップ2019(TM)が、市民のスポーツへの関心喚起や実行促進に寄与している可能性が確認できたように、大規模スポーツ大会はスポーツの魅力や感動を伝える上で大きな役割を果たす。
- 今後も魅力ある大規模スポーツ大会等の誘致に努めつつ、観戦環境の充実や、選手と市民の交流機会の創出を図ることが重要である。

参考データ（アンケート調査の追加分析）

① 「今後実施したいスポーツの競技種目等の割合」と「現在実施しているスポーツの競技種目等の割合」の差

- 性別×年代別と実施状況別に、「今後実施したいスポーツの競技種目等の割合」と「現在実施しているスポーツの競技種目等の割合」の差を算出し、+（プラス）の値が大きければ緑色に、-（マイナス）の値が大きければ赤色に着色している。+（プラス）の値が大きければ大きい（＝緑色が濃ければ濃い）ほど、よりニーズの高いスポーツの競技種目等と解釈できる。

■小学5年生と中学2年生の回答結果（単位は%）

	N	運動遊び(おにごっこ、なわとび、竹馬、一輪車等)	キャッチボール	野球・ソフトボール	サッカー・フットサル	バスケットボール	ゴルフ	ドッジボール	ドッチビー	バレーボール・ビーチバレーボール	ラグビー・タグラグビー	テニス・ソフトテニス	卓球	バドミントン	陸上	ジョギング・ランニング	水泳	ストレッチ	筋力トレーニング	体操・新体操	ダンス(バレエ、HIPHOP等)	サイクリング(自転車)	武道(剣道、柔道、空手道等)	ウォーキング・散歩	登山・ハイキング・釣り	ストリートスポーツ(スケートボード、インラインスケート、BMX等)	ボルダリング	障害者スポーツ(ボッチャ等)	マリンスポーツ(ボート、ヨット、カヌー等)	ウィンタースポーツ(スキー、スノーボード等)	ボウリング	その他
全体	1505	-20.7	-7.3	-0.5	-5.3	1.6	7.4	-3.3	0.2	6.4	3.1	10.8	4.5	3.7	0.5	-15.9	-3.2	-12.1	-5.9	2.4	1.2	-10.9	6.3	-18.4	7.9	4.4	13.9	3.0	10.3	9.7	11.6	-1.0
小学5年生	942	-21.9	-5.3	-0.1	-7.2	2.7	6.9	-8.8	-4.5	5.4	3.9	12.4	6.3	2.4	3.4	-12.8	-7.5	-8.0	-1.1	0.9	-1.4	-12.3	4.9	-20.4	6.4	2.5	14.3	3.3	12.3	9.6	12.7	-1.7
中学2年生	563	-18.6	-10.5	-1.3	-2.1	-0.1	8.2	6.0	7.8	8.0	1.8	8.2	1.4	6.0	-4.5	-21.1	3.9	-18.6	-14.0	4.9	5.4	-8.5	8.7	-14.9	10.3	7.8	12.9	2.7	6.7	9.8	9.8	0.2

■16歳以上の一般市民の回答結果（単位は%）

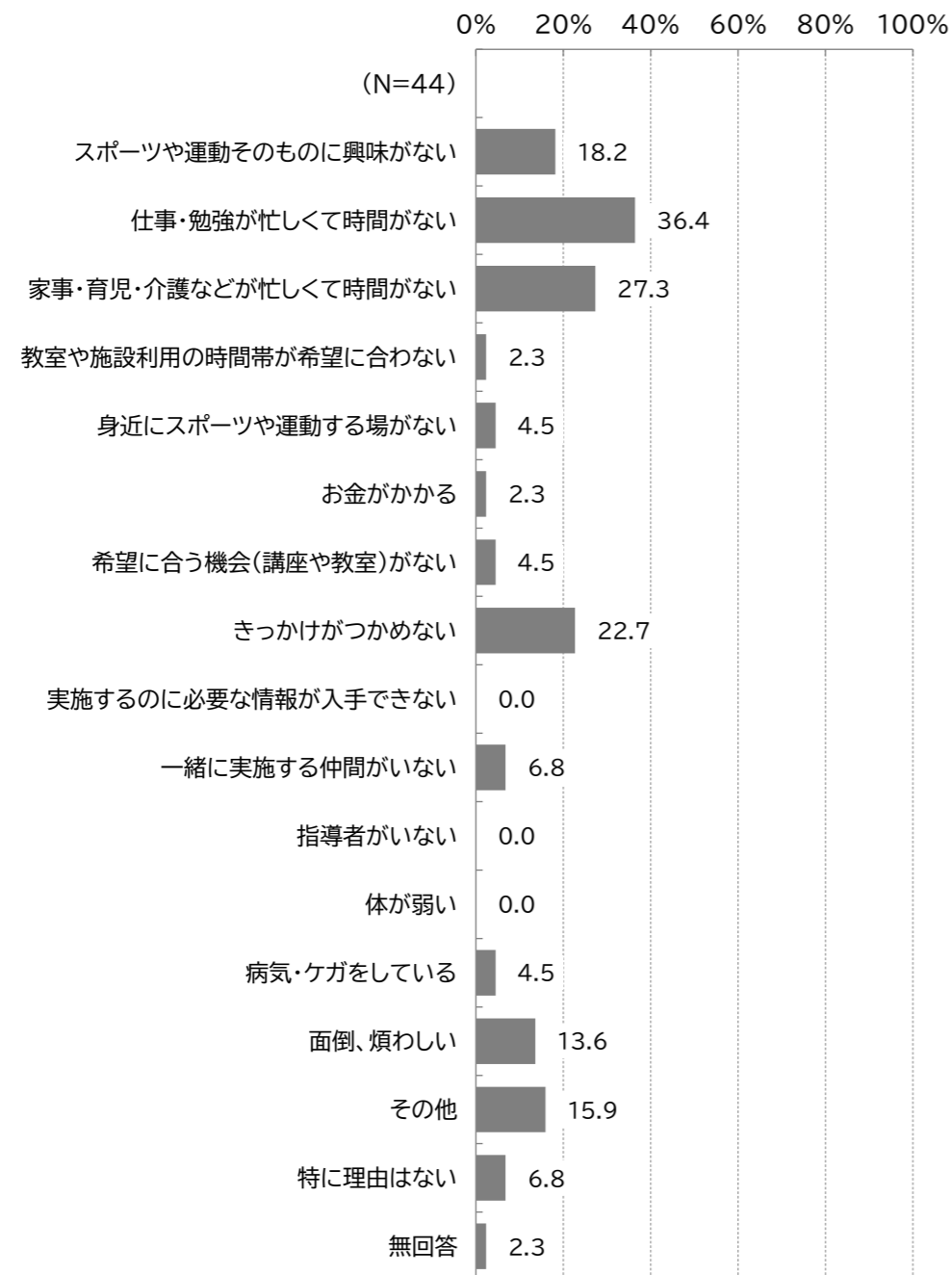
	N	ウォーキング・散歩	階段昇降	ジョギング・ランニング	体操(ストレッチ、エクササイズ、ヨガ等)	スクワット、腕立て伏せ等の自重による筋力トレーニング	ダンベルなどのフリーウェイトや、マシンウェイトなどを使用した筋力トレーニング	ダンス(社交ダンス、バレエ等)	水泳(水中歩行、水中運動等を含む)	武道(剣道、柔道、空手道等)	弓道、アーチェリー	太極拳	ボウリング	ゴルフ(グラウンド・ゴルフ、ゲートボール等を含む)	野球・ソフトボール	サッカー・フットサル	バスケットボール(3人制を含む)	ラグビー(タグラグビー含む)	バレーボール・ビーチバレーボール	硬式テニス・軟式テニス	バドミントン	卓球	サイクリング(自転車)	登山・ハイキング・釣り	ストリートスポーツ(スケートボード、インラインスケート、BMX等)	ボルダリング	ボッチャ等のパラリンピック競技種目	マリンスポーツ(ボート、ヨット、カヌー等)	ウィンタースポーツ(スキー、スノーボード等)	ドッチビー	その他
全体	688	-30.4	-18.9	-3.2	-5.1	-11.9	1.6	6.0	11.3	2.6	5.5	6.1	1.8	1.9	3.7	0.1	2.0	0.8	1.3	5.7	4.3	3.3	0.9	13.1	1.6	4.3	0.4	3.2	2.5	-0.2	0.1
男性16~19歳	8	-25.0	-12.5	-37.5	-25.0	-37.5	-	12.5	-	-12.5	-	12.5	-	-12.5	-50.0	-25.0	-	-	-	-37.5	-37.5	-	25.0	-	25.0	-	-	25.0	-	-	-
男性20歳代	26	-53.9	-46.2	-34.6	-30.8	-3.8	3.9	-	3.9	-	-15.4	-7.7	15.4	3.9	15.4	3.8	11.5	3.9	-	7.7	-15.4	15.4	3.8	7.7	-3.8	3.9	15.4	3.8	-	-	
男性30歳代	43	-41.9	-18.6	-16.2	-9.3	-14.0	2.3	-	7.0	2.3	4.7	-	2.3	4.7	7.0	-7.0	2.3	4.7	2.4	6.9	4.7	2.3	-2.3	20.9	-	9.3	-	4.7	9.3	-2.3	-4.7
男性40歳代	54	-33.4	-3.7	-11.1	-16.7	-12.9	3.7	3.7	11.1	9.2	1.9	3.7	-3.7	9.2	9.2	5.5	11.1	-	-	14.8	1.8	-1.8	7.4	20.4	7.4	5.6	-	7.4	3.7	-	1.9
男性50歳代	60	-28.3	-13.3	-6.7	-1.7	-8.3	10.0	-	10.0	3.3	6.7	5.0	3.3	6.7	6.7	3.4	5.0	-	-	6.7	-	-8.3	25.0	1.7	8.3	-	5.0	-	-	-	1.6
男性60歳代	60	-31.7	-23.4	-6.7	-6.7	-15.0	-	1.7	5.0	1.7	6.7	8.3	10.0	-3.3	3.3	5.0	1.7	-	1.6	16.6	3.3	6.7	3.3	8.4	-	-	-	-	-1.6	-	
男性70歳以上	66	-19.7	-3.1	-3.1	3.1	-7.6	-6.0	4.5	12.1	-	1.5	3.0	4.6	-3.1	4.5	-	1.5	1.5	-	-1.5	1.5	6.1	3.1	9.1	-	-	-	1.5	1.5	-	4.5
女性16~19歳	7	-57.1	-28.6	-42.9	-	-14.2	14.3	-14.3	-14.3	14.3	28.6	-	-	14.3	-14.3	-14.3	-28.6	-	-28.6	-14.3	-28.5	-	-28.6	28.6	14.3	28.6	-	14.3	-14.3	-	-
女性20歳代	35	-28.6	-28.5	11.4	-17.2	-17.1	-11.4	-2.9	14.3	-	14.3	2.8	-5.7	2.9	11.4	-	-5.7	-	8.6	-	14.3	11.4	5.8	2.8	5.7	2.9	5.7	2.9	5.7	-2.9	-
女性30歳代	53	-35.8	-41.5	1.9	-18.8	-15.1	-1.9	16.9	20.8	7.5	7.5	7.5	1.9	1.9	-	-	1.9	-	1.9	9.4	13.2	9.4	1.9	11.3	1.9	7.5	-	5.6	9.4	-	-
女性40歳代	87	-34.5	-21.9	8.1	2.3	-14.9	6.9	15.0	12.7	3.4	8.0	5.7	1.2	3.5	2.3	-	2.3	1.1	2.3	10.4	8.0	1.1	4.6	12.6	-	3.5	-1.1	-1.1	-3.5	-	
女性50歳代	75	-32.0	-21.3	6.7	1.3	-4.0	10.7	12.0	22.7	1.3	6.7	8.0	2.6	-	-	-	-	-	-	4.0	5.3	-	5.4	17.4	-	2.7	2.7	6.7	5.4	-1.3	2.7
女性60歳代	54	-27.8	-20.4	-1.8	3.7	-9.3	-3.7	7.4	14.8	-	1.9	14.8	5.6	3.7	1.9	-	1.9	-	-	3.7	1.8	5.6	-	11.1	-	1.9	1.9	-	1.9	-	-5.5
女性70歳以上	60	-10.0	-5.0	-	3.3	-5.0	-1.7	-	11.7	-	3.3	10.0	-	-	-	-	-	-	-	1.6	5.0	-1.6	-1.6	1.7	-	-	1.7	1.7	-	-	-1.7

	N	ウォーキング・散歩	階段昇降	ジョギング・ランニング	体操(ストレッチ、エクササイズ、ヨガ等)	スクワット、腕立て伏せ等の自重による筋力トレーニング	ダンベルなどのフリーウェイトや、マシンウェイトなどを使用した筋力トレーニング	ダンス(社交ダンス、バレエ等)	水泳(水中歩行、水中運動等を含む)	武道(剣道、柔道、空手道等)	弓道、アーチェリー	太極拳	ボウリング	ゴルフ(グラウンド・ゴルフ、ゲートボール等を含む)	野球・ソフトボール	サッカー・フットサル	バスケットボール(3人制を含む)	ラグビー(タグラグビー含む)	バレーボール・ビーチバレーボール	硬式テニス・軟式テニス	バドミントン	卓球	サイクリング(自転車)	登山・ハイキング・釣り	ストリートスポーツ(スケートボード、インラインスケート、BMX等)	ボルダリング	ボッチャ等のパラリンピック競技種目	マリンスポーツ(ボート、ヨット、カヌー等)	ウィンタースポーツ(スキー、スノーボード等)	ドッチビー	その他
全体	676	-30.8	-19.8	-3.2	-5.8	-12.2	1.6	6.0	11.2	2.8	5.6	6.2	1.8	1.9	3.7	-0.2	1.9	0.8	1.2	5.9	4.3	3.3	0.7	13.2	1.5	4.4	0.4	3.1	2.5	-0.2	-
定期実施層	472	-36.7	-21.0	-6.8	-11.3	-18.4	-1.3	6.3	10.8	2.3	4.4	6.4	3.2	1.1	2.8	-	2.1	0.7	0.6	5.9	3.4	1.7	-1.3	14.6	0.7	4.3	0.4	3.2	2.8	-	-0.9
不定期実施層	160	-30.7	-22.5	4.4	2.5	-1.2	7.5	4.4	7.5	5.0	7.5	6.9	-3.1	4.4	5.6	-1.3	1.2	0.7	1.8	5.7	5.6	6.2	4.3	8.7	3.2	5.0	-	1.9	1.3	-0.6	1.8
非実施層	44	31.8	2.3	6.8	22.7	15.9	11.4	6.8	29.5	-	11.4	2.3	4.5	2.3	6.8	2.3	2.3	2.3	4.5	6.8	9.1	9.1	9.1	13.6	4.5	4.5	2.3	6.8	4.5	-	2.3

②スポーツや運動を実施しなかった理由

- スポーツを「実施したかったができなかった」・「実施していないしやろうと思わなかった」と回答した人にスポーツや運動を実施しなかった理由を尋ねたところ、「仕事・勉強が忙しくて時間がない」が36.4%と最も多く、次いで「家事・育児・介護などが忙しくて時間がない」が27.3%、「きっかけがつかめない」が22.7%となっている。

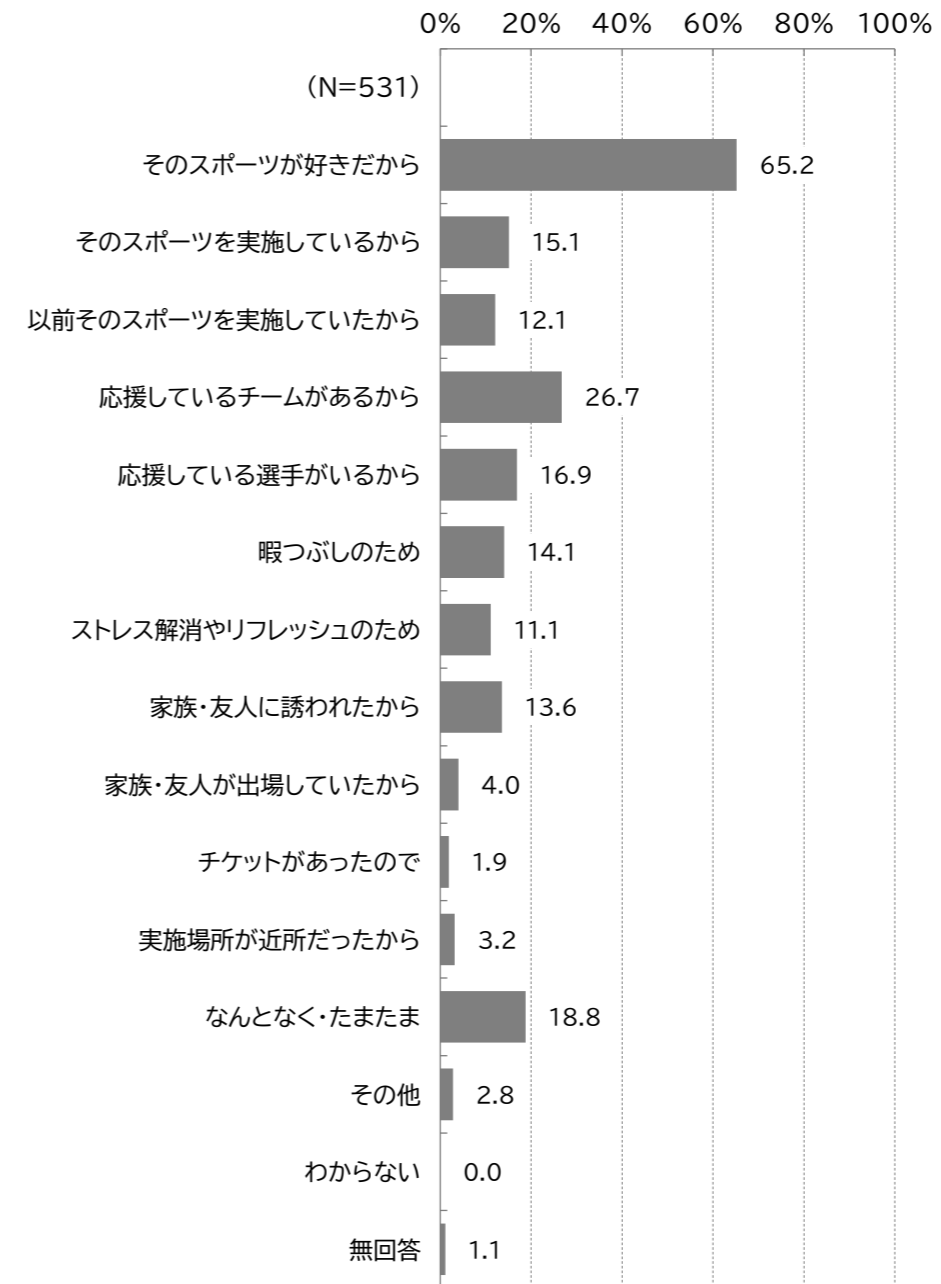
■スポーツや運動を実施しなかった理由



③スポーツを観戦した理由

- おおむね過去1年間に国内・海外のトップスポーツ（ラグビーワールドカップ2019（TM）、Jリーグ、プロ野球など）、国内のアマチュアスポーツ（高校野球、親や兄弟の試合など）の大会や試合を観戦した人に理由を尋ねたところ、「そのスポーツが好きだから」が65.2%と最も多く、次いで「応援しているチームがあるから」が26.7%、「なんとなく・たまたま」が18.8%となっている。

■スポーツを観戦した理由



④スポーツ観戦の有無とスポーツ実施、支えるスポーツ実施との関連性

- スポーツ観戦の有無別に、スポーツの実施状況、支えるスポーツ実施の有無についてクロス集計を行った。
- スポーツの実施状況について、「定期実施層」に着目すると、「観戦していない」よりも「観戦した」の方が高くなっている。
- 支えるスポーツの実施の有無について、「支えるスポーツを実施した」に着目すると、「観戦していない」よりも「観戦した」の方が高くなっている。

■スポーツ観戦の有無別にみたスポーツの実施状況（単位は%）

	N	定期実施層	不定期実施層	非実施層
全体	672	69.8	23.7	6.5
観戦していない	149	65.1	26.8	8.1
観戦した	523	71.1	22.8	6.1

■スポーツ観戦の有無別にみた支えるスポーツ実施の有無（単位は%）

	N	支えるスポーツを実施した	支えるスポーツを実施していない
全体	669	16.6	83.4
観戦していない	151	5.3	94.7
観戦した	518	19.9	80.1

⑤ラグビーワールドカップ2019（TM）の影響を受けて生じたラグビー及びスポーツや運動に対する考え方の変化（アンケート調査報告書に掲載済）

- 「ラグビーに対する興味や関心が高まった」が最も高く、次いで「特に変化していない」、「ラグビーを観戦したいと思った」となっている。

■16歳以上の一般市民の回答結果（単位は%）

N	ラグビーに対する興味や関心が高まった	ラグビーを観戦したいと思った	ラグビー以外のスポーツを観戦したいと思った	ラグビーをやってみたいと思った	スポーツや運動に対する興味や関心が高まった	スポーツや運動を始めたい・再開したいと思った	スポーツや運動を今以上にやりたいと思った	選手やチームを応援する楽しみ・喜びが増えた	その他	特に変化していない
690	52.0	28.3	2.5	0.9	7.5	2.6	3.0	16.7	1.2	35.7